

合格コメント

屋比久 賢 光

私は自分でも数えるのが嫌になるくらい国試に落ち続けましたが、初めの三回くらいまでは何も予定がない解放感にあふれ、充実した日々を過ごしておりました。

しかしその頃には、友人らも初期研修を終えていて、たまに会ったりしますと医師として立派に成長している彼らの姿が眩しすぎ、啄木の「友がみなわれよりえらく見ゆる日よ」が頭の中でリフレインし始めました。親しむ人もいない私としてはやっと危機感を覚える出来事でした。けれども長年にわたって染み付いた怠惰が簡単に抜けるわけもなく、三日坊主を繰り返していました。

そこで自分の自制心や忍耐力に見切りを付けて、他所からの強制でどうにかするしかないと思いついた予備校のお世話になることにしました。そこは基礎からやってくれるので、すっかり忘れていた私のような者でもついて行けて、時折小テストや面接があり、怠けさせてくれないところも自分には合っていました。そのカリキュラムに従っていたら、無事合格できました。

医学部同窓会からも無料で模試を送って頂くなど大変有り難く、何より励ましのメッセージが嬉しかったです。就職したら会費の滞納はやめようと思いました。

桑 江 聡

同窓会の先生方並びに学生の皆様、初めまして。今年琉球大学医学部附属病院に研修医として採用された25期卒の桑江聡です。国家試験に3回浪人し、今年ようやく合格という結果を残す事が出来ました。今回、会誌にその経緯を載せたいとの要望がありましたので浪人生活で得た経験と決意を書かせて頂きます。

最初の2年間は自宅で浪人しました。参考書と問題集を何度も見直し出来る限りの努力をしたはずでしたが、結果は不合格でした。努力に見合わない結果を受けて気持ちが非常に不安定になった事を今でも覚えています。その後、自身の勉強方法に問題があるのではないかと考え、最後の浪人生活は福岡にある医師国家試験専門予備校に通う事にしました。予備校生活は先の2年間の浪人生活に比べて非常に有意義だったと感じています。自身の間違った勉強法を直すだけでなく、同じ境遇の仲間達と勉強する環境を創り出し、同じ目標に向かい励む事が出来たからです。この経験は常に周囲のサポート無くして出来る事ではありませんでした。支えてくれた方々にとても感謝しています。これからは医師として働ける事に感謝をし、沖縄の医療者として活躍出来るよう鋭意努力していきます。

魚 谷 周 平

こんにちわ27期の魚谷と申します。

昨年の国試から早くも1年経ってしまいました。一生懸命だったのであつという間でした。

国試の可否は試験日から約1ヶ月かけて厚労省が決めます。だからどう騒いでも結論は覆らないと思ったのでこれから何が出来るかに思考を切り替えました。まあ後悔とか横切るでしょうが立ち止まってる場合はありませんでした。

発表～3月末：まず選択肢を挙げました。予備校(MEC or TECOM)?、宅浪(ビデオ講座 or QB など)? 地元の医大出身浪人生と勉強会? などを考えました。

次に優先順位、後は家庭状況も考えました。この大事な決定時、どうした方がいいかなどの最善策を同窓会が相談に乗ってくださりました。私の場合奇跡が重なり予備校かつ下宿に通うという最高の結果で迷いなくスタートを切れました。これも後悔しないための後押しがあったからです。

4月～国試：あとはやるだけです。さらに後押しとして定期的に模試も送付していただきました。1社では数少ない模試ももう1社受ければバッチリです。しかし模試といっても金銭が・・・いやいや心配ありません。同窓会負担で1年間支えてくれました。さらに現役生に交じて順位が出るため刺激になります。

私の場合は事務面でも情報をいただきました。国試の手続き、マッチング情報についてなど情報不足がちな浪人生にも不利にならないよう配慮してくれました。また会報誌、同窓生名簿なども郵送してくれたので同期や後輩の活躍も知れて自分への励みにも繋がりました。

本番の受験会場について：やはり万全に勉強が進んでいてもやはり大切なのは本番の3日。これもまた沖縄会場受験のサポートは他

大学に比べかなり有利といえます。国家試験対策委員がメインですがもちろん同窓会通じても助けてくれます。今回大阪で受験してみても沖縄で受験すればよかったなと後悔したほどでした・・・

最後に：実際に勉強するのは自分ですが勉強しなくていいですし、やるほどに自分に還元される。とてもめぐまれた期間でした。それも同窓会ははじめ同期や後輩からの刺激で励まされ走りきることができました。不合格でないと思えない世界もありましたし、合格した今だからこそ振り返って見えるものがあります。本当にありがとうございました。

立 津 朝 成

どうも初めまして、またはご存知の方はお久しぶりです、第108回医師国家試験に合格いたしました立津と申します。やったぜ。にもかかわらずにもまずは学生時代の経歴から。僕は一度留年を経験しました。さらに前回の国家試験にて不合格となり、国試浪人も経験することになってしまいました。

学生時代の思い出は、それはそれは楽しい思い出ばかりです。何故なら楽しいことばかりを追求した生活を送っていたからです。上に書いた経歴はその結果と言えるでしょう。典型的なバカ、勉強嫌いを具現化したら僕のようなになるでしょう。

合格が当たり前の試験に落ちるといのは、普段から地面を這わなければ生きていけないような辛い気持ちになるものでした。時に励ましてくれる人たちの優しさですら苦しさを感じてしまうほどです。

学生は楽しいのが何よりです。ぜひこれからも楽しんでください。でもこれだけは忘れないでください。学生の仕事は勉強であること。大人が言っていたのは本当だったんですね。それさえ思い出せば、僕のような思いをすることはありませんし、上々な人生が必ず歩めます。マジで。受かると本当に嬉しいから本気で頑張ってくださいね。これから国家試験を受ける君たちに幸あれ。

今 田 悠 介

はじめまして、27期生の今田悠介と申します。私は在学中に医師国家試験(107回)に失敗し、浪人生として受験した108回で何とか合格することができました。今回はこの2度目の受験を浪人生の視点から報告させていただきます。107回では必修科目が1点足りず不合格になりましたが、その結果を知った瞬間、絶望のどん底に突き落とされ、しばらくは人生でも辛い時期が続きました。当時の勉強仲間が皆合格し次のステップへ進むなか、自分だけが取り残され、無力感に襲われました。それでも諦めずに次のチャンスへ向けて準備をしなければなりません。私は1年で絶対に合格するべく福岡にある予備校に通うことにしました。

予備校では講義に追われる毎日でした。解剖学、生理学から始まり夏までに臓器別の内科学が終わります。ほぼ毎週確認テストがあり、復習は欠かせません。夏が終わると産婦人科、小児科、マイナー科目、内科学のまとめ講義が組まれて、気が付くと試験まで残り約100日に。講義が減り自由な時間は増えましたが、過去問を解いたり、これまでの復習にあてたり、模試を受けたりしている間とあつという間に毎日が過ぎていきました。

予備校に通っていると、1年間が長いとは感じませんでした。勉強に専念でき、勉強仲間にも恵まれ切磋琢磨できます。むしろ、いくら勉強しても時間が足りないと感じるくらいです。それでも、浪人生ならではの問題—「合格する」という強い気持ちを維持することのむずかしさに悩まされました。同期が医師として働き始めているなか、自分だけがもう1年かけて2度目の医師国家試験に挑むということは、予想していた以上に辛く、気を抜くと孤独や羨望といった負の念を抱えてしまい、やる気が起こらず勉強に身が入らないときもありました。そういうときには、『この1年だけは～、この1年だけは～』と念仏のように唱えて気合を入れたり、この南風の同期の近況を読んだり、近くの大学病院へ見学に行ったりしてモチベーションを保つように努力しました。

『悩んでも迷ってもどうにかして気持ちを切りささない』——浪人生として体験した日々はこの言葉に集約されるのではないかと今では思います。

末筆になりましたが、この苦しんだ経験を活かし、医療の現場で粉骨砕身してまいりますので、同窓会の皆様、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。